

平成19年度事業報告書

1 事業の概要

平成19年度は、大学、短期大学進学希望者の9割が入学を果たし、実質的な大学全入時代の幕開けとなった。当法人では、設置する各学校がそれぞれ特色のある施策を展開すると同時に、学校群全体のスケールメリットを十全に生かしながら、創設期以来最大規模のドラスティックな改革に取り組んでいるところである。

本年度、東横学園女子短期大学を先進性の高い四年制の学部(2学部)とし、武蔵工業大学と統合するための準備作業を本格的に開始した。又この統合に伴い、「常に魅力ある教育システムを構築する」ことを目的として、本法人が設置する大学から幼稚園までの全ての学校について新校名「東京都市大学」を冠した名称に変更することが平成20年3月理事会において決定された。なお、武蔵工業大学では、知識工学部(3学科)を開設するとともに、工学部生体医工学科を新設し、時代に即した学部学科への再編成を断行した。さらに室蘭工業大学、多摩美術大学、昭和大学との包括連携協定を締結し、各大学との組織的かつ広範囲な協力体制を確認している。高大連携等法人内における連携強化に加え、こうした対外的コラボレーション(協同)を進めることは、厳しい学校間競争を勝ち抜く重要な取組みとして捉えている。

東横学園中学校・高等学校との統合による東横学園大倉山高等学校の廃止については平成20年3月所轄官庁の廃止認可を得ている。

又広報においては、平成21年度からの武蔵工業大学と東横学園女子短期大学の統合に伴う大学名称の変更並びにこれに伴う設置学校の名称統一、全体の連携強化に向けた広報の基盤作りを重点に活動を行った。人事面においては、学校教育法の一部改正に伴う教員組織の整備、新人事制度導入に伴う研修を展開した。又大学統合に伴う具体的業務の推進のため新学部設置準備室を設置した。なお、更に質の高いサポート体制の構築に向けて事務組織の再編成、改革に向けて取り組んでいる。財政面においては、教育環境の充実と老朽施設設備の更新を続けながら一層の経費節減を図っているところであるが、本年度消費収支差額は674百万円の収入超過となった。その理由としては、本年度予定していた新学部開設の一年延期、建築基準法改正の影響による小学校新築校舎の建設工事の着工遅延、借用校地の買収延期、除却資産の増加に伴う基本金組入額の減少、経費の見直しによる教育研究経費及び管理経費等の減少等が主な要因である。

広報

大学統合及び名称統一、設置学校間連携等、広報の一元化と充実強化を目的として、五島育英会広報委員会を設置し、今後の広報活動の基盤作りを重点に行った。

募集広報

新学部の設置が延期されたことによる平成20年度募集活動が支障を来たさぬよう、法人全体として情報活動を推進した。

一般広報

法人内の正確な情報を積極的に発信し、社会からの信頼向上を目的として、以下の広報活動を推進した。名称変更が決定され、新ブランド戦略広報に着手した。

教育理念や方針を含めたメッセージを広報媒体により、積極的に発信した。

教育研究や正課外教育、産学連携等の成果を、積極的にパブリシティを活用して広報を行った。

社会動向や各学校の評価を収集・分析するため、定常的な情報収集機能を改善した。

アニュアルレポート(年次事業報告書)を作成し、ステークホルダーへ学園全体の年間の動きを報告した。

内部広報

学園の改革へ向けた諸施策の共有へ向けて、法人ホームページなどを通じて情報の発信に努めた。

人事

[職員配置(教員組織の整備)]

平成19年度の職員配置については、武蔵工業大学において、平成19年4月に工学部生体医工学科及び知識工学部(情報科学科、情報ネットワーク工学科、応用情報工学科)を開設し、更に質の高い教育・研究が展開できるよう職員組織の充実を行った。

また平成19年4月から学校教育法が一部改正され、大学等の教員組織の整備に係る法令改正が行われたことから、武蔵工業大学及び東横学園女子短期大学においては、助教授を准教授に、助手を助教及び助手にそれぞれ移行している。また武蔵工業大学の教員組織のうち、助手については既に任期制を導入しているが、大学組織の活性化の推進、更に優秀な人材の確保、上位職へのキャリアパスとして位置づけ、平成19年度から新規で採用される講師及び助教についても任期制を導入することとした。

[新人事制度の導入]

平成19年度より事務職を対象に新人事制度を構築し、初年度は事務管理職を対象に評価制度を導入し、目標課題の達成に向け日々の業務の推進を行い、更に職員の意識改革、質的向上を図り、人材育成の強化に向けて取組んだ。又本制度の適正な運用が図られるよう評価者

研修を実施し、更に段階的に事務管理職研修を展開しており、係長職資格者に対し、現場リーダーとして期待される役割行動が発揮できるよう、改めて意識付けを行い、更に個々のスキルアップを目的とした研修を実施した。

[事務組織]

「新学部設置準備室」を設置し、新学部開設に向け各キャンパス間で行なっている業務システムの統合作業などプロジェクトチームを中心に具体的な業務を推進している。

財務

キャッシュフロー計算書を作成し、業績評価、投資評価に活用し、財務の安全性と事業運営の健全性を向上すべく取り組んでいる。

平成19年度決算は、帰属収入 18,328 百万円から基本金 33 百万円を組入れ、消費収入は 18,295 百万円となり、予算を 4,360 百万円上回ったものとなった。これは、予定していた新学部開設が1年延期になり、又建築基準法改正の影響による小学校新築校舎建設工事の着工遅延及び借用校地の買収延期他、除却資産の増加に伴う基本金組入額の減少によるものである。

消費支出合計は、17,620 百万円となった。新学部開設が1年延期になったこと、経費の見直しにより教育研究経費及び管理経費で予算額より 1,586 百万円減少している。

以上により、当年度消費収支差額は 674 百万円の収入超過となった。

施設設備計画の実施状況

平成19年度に決定された事業計画の実施状況は、次の通り。

用地買収計画

東横学園小学校敷地内国有地の買収（中止）

東横学園小学校の校舎新築計画に伴い、敷地内の借用国有地を下記により払下げを申請したが、売却通知価格が予定価格を大幅に上回ったため、申請を取り下げた。

物 件	東京都世田谷区成城1丁目118番58、同番142 公簿面積 1,291㎡(391坪)
相手方	財務省関東財務局

施設・設備計画

武蔵工業大学

ア 総合研究所既存棟外装改修工事

総合研究所既存棟の外装の劣化が目立つため、改修工事を実施した。

- ・ 工事請負業者 (株)東急リニューアル
- ・ 工 期 着 工 平成19年8月21日
完 了 平成19年9月20日

イ 世田谷キャンパス 3 号館空調設備の一部更新

世田谷キャンパス 3 号館(平成 5 年竣工)空調設備の一部が経年劣化により使用不能であるため、更新工事を実施した。

- ・ 工事請負業者 ㈱キャプティ
- ・ 工 期 着 工 平成 19 年 12 月 4 日
完 了 平成 19 年 12 月 30 日

ウ 世田谷キャンパス 6 号館 6 3 2 教室改修工事

6 号館 6 3 2 教室を知識工学部の共通実習室として利用するための改修工事を実施した

- ・ 工事請負業者 東急建設株式会社 (内装改修工事)
富士テレコム株式会社(LAN工事)
浦野工業株式会社 (自火報工事)
- ・ 備品等納入業者 株式会社岡村製作所
株式会社サウンドシステム
- ・ 工 期 着 工 平成 20 年 2 月 14 日
完 了 平成 20 年 3 月 10 日

エ 世田谷キャンパス 6 号館耐震補強工事

世田谷キャンパス 6 号館は、耐震補強工事を実施する予定であったが、世田谷キャンパス再編計画構想に伴い、再検討とした。

オ 世田谷キャンパス 6 号館 B 2 教室改修工事(中止)

世田谷キャンパス 6 号館 B 2 教室の改修工事を実施する予定であったが、教室の使用計画の見直しに伴い、中止した。

カ 世田谷キャンパス 1 0 号館生体医工学科実験実習室改修工事(中止)

生体医工学科の設置に伴い、世田谷キャンパス 1 0 号館実験実習室の改修工事を実施する予定であったが、建築中の新 2 号館内に実験実習室を整備することとしたため、中止した。

武蔵工業大学新学部(東横学園女子短期大学内)

校舎改築・改修工事

ア 2 号館改修工事

武蔵工業大学新学部(都市生活学部・人間科学部)の開設準備のため、改修工事を実施した。

- ・ 工事請負業者 東急建設(株)
- ・ 工 期 着 工 平成 19 年 7 月 25 日

完了 平成 20 年 3 月 17 日

イ 3号館増築・改修工事

武蔵工業大学新学部(都市生活学部・人間科学部)の開設準備のため、増築・改修工事を実施した。

- ・ 工事請負業者 東急建設(株)
- ・ 工 期 着 工 平成 19 年 6 月 29 日
完了 平成 20 年 3 月 17 日

東横学園女子短期大学

ア 2号館耐震補強工事

2号館(昭和54年竣工)は新耐震設計以前の建物のため、補強工事を実施した。

- ・ 工事請負業者 東急建設(株)
- ・ 工 期 着 工 平成 19 年 6 月 1 日
完了 平成 19 年 9 月 19 日

本件については文部科学省より国庫補助を受けた。

イ 1・2・3号館屋上防水工事

1号館・2号館・3号館の漏水対策として屋上防水工事を実施した。

- ・ 工事請負業者 (1号館) (株)東急コミュニティー
(2・3号館) 東急建設(株)
- ・ 工 期 (1号館) 着 工 平成 20 年 1 月 10 日
完了 平成 20 年 3 月 4 日
(2・3号館) 着 工 平成 20 年 1 月 7 日
完了 平成 20 年 3 月 15 日

東横学園小学校

新校舎新築工事(継続中)

東横学園小学校の新校舎新築及び特別教室棟の増改築工事を継続中であり、北側エントランス及び多目的ホール、グラウンドを除き平成 20 年 8 月下旬に完成予定である。

収益事業部門

1 不動産貸付業

既存テナントとの契約更新時に、賃料改定を行い、予算比 2.6 百万円の増収となった。又、学校法人部門への繰出金を 5.4 百万円増とした。

顧客の確保、安定的な収入を図るため、防災対策、セキュリティ対策など、入居

者・利用者に対する安全性を向上させる対策を行なった。

2 東急自動車学校

再開発事業の進捗による周辺環境の変化に伴い、集客に多大の影響をもたらしたが職員全員が危機感を共有し、下記のとおり業務に取組み、予算比4百万の収入超過となった。

サービスの絶対差を目指し、日常の指導徹底他、職員の資質向上に努めた。

新大型免許教習の開始

新大型教習に対する需要の拡大に伴うソフトの導入、トラックの増車。

教学部門（各学校）

武蔵工業大学

1 教育活動への取組み

学部改組後の教育・研究の円滑な実施

工学部・知識工学部において学群制度による1年次共通のカリキュラムを実施。

実験・実習授業とプレゼンテーション能力授業の融合教育の実施

演習科目の強化（環境情報フィールド演習・コンピュータ言語演習実施と改善）

広い専門分野で応用が利く基礎科目の充実と社会ニーズにあった大学院カリキュラムの体系化

高大連携

付属系列校からの受入れ推薦制度の見直しを行った。平成21年度より段階的に実施予定。

2 重点目標への取組み

統合に伴う新学部及び工学部原子力安全工学科の開設準備

7部門の新学部開設準備プロジェクトを編成し、開設準備にあたった。原子力安全工学科においては、開設にあたり、原子力の人材育成の充実を図るため、原子力研究促進プログラム（文科省）、原子力教育支援プログラム（経産省）に応募し採択された。

統合後の入学者確保に関する広報活動の強化

特色ある研究・プロジェクトの推進

全学研究委員会において、総合研究所の研究プロジェクトとして重点的に育成すべき先行研究の募集と選考を実施。

教員の業績評価システムの構築・試行

全学教員業績評価委員会において進めているテストシステムを完了、試行を開始。

平成20年度以降の教職員定員の策定

指針を作成、学内承認。

経常教育研究費配分方法の見直し

指針を作成、学内承認。

競争的外部資金の獲得

環境情報学部において、文科省の現代G Pに採択された。

世田谷キャンパスの施設設備計画の策定

キャンパスマスタープランを完成。

武蔵工業大学附属中学校・高等学校

1 教育活動への取組み

新体制(中高完全一貫体制)初年度として校内整備を進めながら円滑な学校運営と教育実践の展開

校務運営委員会を中心として、学年主任会の新設・運営、保護者・生徒の面談期間の設定、人事の調整等を積極的に推進した。

教育・授業効果の向上、進学成果の拡大

模擬試験・英語検定・漢字検定を年間計画に位置づけ、実施した。

新体制における新生活ルールを定め、道德教育・HR等を通して規律とマナー、自立心を育てた。

教育施設や情報機器の使用マニュアルの整備、有意義な活用

マニュアル、申し合わせ等を作成した。

中高6カ年完全一貫体制の充実と成果に向け、計画的な教職員の補充

広報活動の改善・充実

広報部の新設、入試委員会の独立による広報・入試活動のパワー・アップ

2 重点目標への取組み

中高6カ年完全一貫体制のビジョンの教職員による確認、整備

生徒による授業アンケートや授業研究の展開による授業効果の向上

授業アンケートの実施、結果分析。

学力推進本部の新設

学力状況を分析、学力施策を効果的に推進。

情報機器を活用した授業プログラムを創設

進路・進学指導の充実

センター模試の制度化、志望校別ガイダンスの実施。

道德授業・集団行動等の場を使って自他を尊重する自立心・自律心と国際理解を育てる。

校内研修会の設定、外部研修の積極的参加による教育力量の向上
校務運営委員会の中に研修担当を置き、校内研修、校外自主研修を推進。
学校説明会、学校パンフレットの充実等による本校の広報活動の充実
広報部の新設による広報活動への積極的な取組みを種々実施。

武蔵工業大学第二高等学校

1 教育活動への取組み

中途退学防止への具体的取組みの実施

職員研修の積極的実施

遅刻対策・S H R , L H R の組織的取組み

家庭との連携強化等問題行動減少への具体的取組み

進路指導の取組み

ガイダンスの実施、特別講座の強化、就業体験等、多岐に亘り実施

武蔵工業大学との高大連携の発展、塾・予備校との連携強化

2 重点目標への取組み

武蔵工業大学への合格者を15名、国公立大学合格者3名、就職率100%の
達成

武蔵工業大学合格者14名、国公立大学合格者2名、就職希望者内定率100%

特別入試、女子推薦入試等特色ある入試の実施

受験者増の実績となった。

武蔵工業大学との高大連携の活発化

武蔵工業大学による公開講座の開催、大学バスツアーの実施等

外部支援体制の強化

同窓会、企業、卒業生、PTA等との連携強化、本校支援ボランティアによる教育
活動、PR活動を積極的に実施。

学科の履修内容や魅力について組織的なPR活動の展開

塩尻、松本市内の拠点校を中心に訪問回数の増、中学校、塾への進路講話の実施

東横学園女子短期大学

1 教育活動への取組み

特色ある大学教育改革の支援プログラムの継続的取組みと採択の推進

平成17年度採択された保育学科においては、平成19年度計画どおりのプロ
グラムを遂行、3年間の総括集を発行した。ライフデザイン学科は、採択には至らな
かったが、学科一丸となって取組み、今後の外部資金獲得に向けた姿勢の向上が図れた。

在学生へのきめ細かな教育指導と短大から四大への以降準備

授業評価アンケート、学生生活アンケートを実施、更に「学生からの意見箱」を設置し、意見・要望等の情報をいち早く収集し、早期の対応を行うようにした。

四大への移行準備、特に研究室の配置については、計画どおり遂行した。

資格取得支援体制の強化

資格取得講座の継続的な整備充実により、フードスペシャリスト95%、色彩検定3級82%、ファッション販売能力検定74%と、目覚ましい合格率を達成。

就職・進路指導の強化

個人面談、就職講座、企業セミナー、四年制大学への編入学希望者への説明会等指導の一層強化を図った結果、就職率等目標を概ね達成した。

基礎学力の向上

国語表現力、英語力の他、学科のコアとなる科目を基礎学力アップの科目と位置づけ、学力向上を図った。

2 重点目標への取組み

特色ある大学教育改革の支援プログラムの継続的取組みと採択の推進

平成17年度採択された保育学科においては、平成19年度計画どおりのプログラムを遂行、3年間の総括集を発行した。又子育て支援センター「ぴっぴ」を効果的に活用、実践力ある保育者養成実現のための教育プログラムを開発し、開設予定の新学部で実現する運びとなった。ライフデザイン学科は、採択には至らなかったが、学科一丸となって取組み、今後の外部資金獲得に向けた姿勢の向上が図れた。

在学生へのきめ細かな教育指導と短大から四大への以降準備

授業評価アンケート、学生生活アンケートを実施、更に「学生からの意見箱」を設置し、意見・要望等の情報をいち早く収集し、早期の対応を行うようにした。

四大への移行準備、特に研究室の配置については、計画どおり遂行した。

東横学園中学校・高等学校

1 教育活動への取組み

中学校 「基礎学力の定着と進学のための発展的学習の強化」

国語 漢検取得、外部団体主催コンクールへの積極的参加

数学 継続的な補習の実施による得点率の向上

数検の認知度向上により受験者数、合格率も向上

英語 英検目標取得率は、積極的な指導により、目標を大きく上回った。

音読コンテストを取り入れ、音読習慣を確立、発音の改善につなげた。

理科 実験や体験学習、教材等を通し、自発的学習の促進、問題解決能力の育

成、知識の定着を図った。

社会 授業ノートのとり方の工夫、プリントを使った反復練習により、基礎学力の定着、学習習慣の確立に努めた。

高等学校 普通コース「一人ひとりの学力の向上と大学合格実績の拡大」

英語留学コース「留学に耐えうる高い英語力の習得」

国語 漢検取得、外部団体主催コンクールへの積極的参加

数学 課題学習の習慣化を積極的に進め、学力向上につながった。

実力テストの得点率が向上、基礎力が定着、数検の準2級合格者が前年比大きく向上

英語

普通コース 音読習慣の確立、リスニング力の強化、英字新聞の活用

英語留学コース ハイレベルな授業、英語合宿等により英語力の著しい伸び

理科 調べ学習や実験を通して、探究力や発表力を養成

個別学習に力を入れ学力の向上につなげた。

社会 サテライト授業の有効活用、入試問題等の徹底指導により外部模試偏差値が大幅に向上

教科外活動

プレゼンテーション能力、自己開発能力、知性、教養・自主自立の力の養成

2 重点目標への取組み

補習、講習等積極的に実施

家庭学習習慣の確立のための指導を行い、効果を上げた

教員資質の向上に向け、積極的な教科内研修を実施し、授業力を向上した。

学校行事、校外学習、宿泊行事等について積極的かつ綿密な指導を実施

生徒指導・生活指導への取組み

個人面談等を通して、交友関係、家庭環境の把握に努めた。

進路指導の充実と大学合格実績の拡大に向けての取組み

補習、講習、勉強合宿等熱心な指導にあたり、論文指導や面接の個別指導を徹底することで、大学合格実績が向上

東横学園小学校

1 教育活動への取組み

4教科の学力の向上を達成

教科課程の見直しを実施

国語科授業の改変

読書感想文を書くことを主にした指導、6年生の習熟度別国語特訓を実施
交通安全、防犯安全の指導、災害時避難誘導訓練を実施、教員救護講習の実施
研究授業の活性化
研究紀要「まなび」の発刊

2 重点目標への取組み

学習指導

算数オリジナル問題集を作成、国語特別進学指導を強化、国語(読書)年間指導を確立

受験指導と進学・合格実績

偏差値60以上の合格者が大幅に増加

研究、研修活動

校内研究会5回、校外研修4回の実施、その他夏期を利用し個別研究に参加

教科研究部を中心とし、研究授業を充実

広報委員会を中心として、ポスター、学校案内、学校説明会等広報活動を充実

東横学園二子幼稚園

1 教育活動への取組み

健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を、学年の年間目標と学期ごとの目標を明確にして取り組むことにより養成

年少組 園生活の決まりや習慣を覚える

時間をかけ、根気よく繰り返す指導・援助し、園生活を理解出来てきた。

年中組 園生活の決まりや習慣を守り行う

一年間の園生活の経験が集団生活のリズムとして自身で意識できるようになった。

年長組 主体的に園生活の決まりや習慣を身につける

園生活の決まりや習慣をよく理解し、身についた。他のことにも気づき、工夫など生活全体に主体性や積極性を身に付けさせた。

2 重点目標への取組み

運動や遊びを通して幼児期に身体を十分動かす経験を積ませた

健康で安全な生活を送る

ルール、安全行動等の教え、手洗い励行等衛生面での生活習慣の実践。

個々の運動能力、遊び方の違いを把握した指導の実践

東急自動車整備専門学校

1 教育活動への取組み

中途退学者の抑制

学生との面談時間を増加、保護者との連絡を密にした防止策を講じた。

豊かな人間性の涵養

学生、教職員全員による年3回の地域清掃活動、ビジネスマナー研修等により社会人としての資質の向上に努めた。

2 重点目標への取組み

入学定員確保に向けた施策

高校訪問強化、HPのリニューアル化、入試制度の変更（特待生制度、AO入試の導入）等を実施した。

2級自動車整備士試験全員合格のための施策

能力別クラス編成等国家試験対策に向けて万全を期した。

以 上